

## ユオロギ

闇から孵化したユオロギ君

黒い面を反り返らせて

人を避けて草むらに逃げる

見えなくなると

胸を刺すような音色を響かせ

リー、リー、リー、リーと

語りかけてくる

いつも君が怖い

君の会話は言葉の交し合いではなくて

僕の懐に入り込み

中から僕の言葉で僕に話し掛けてくる

だから所詮逃げ隠れはできないのだ

骨で響き合う会話のように

体の髄を伝わって内臓すべてを

寒々とさせる

秋の静かな一人の夜など

僕は自分で自分を追い込み

逃げ場を失う

リー、リー、リー、リーと自分を追い込み

明日をどのように過ごすかを

樹の祠にするように

僕の枯れた骨の祠に

恥かしげに囁くのだ

(2008.5.25)